

算数科学習指導略案

あさひ子学級2組 5名 指導者 西俣 誠人

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 個々の子供に合った主体性を引き出す教材・教具を工夫することは、子供のできる状況をつくり、学びを深める手立てとして有効であったか。

1 題材 たし算(1) / たし算のひっ算

2 指導計画

小題材	主な学習活動	評価規準			時間	資質	小題材	主な学習活動	評価規準		時間	資質
		A	B	C					D	E		
あわせていくつ	1 「あわせる」場面を加法として理解し、式に表す。	思:加法の式を具体的な場面に結びつけて与えることができる。	思:問題を読んで、加法の具体的な場面を理解することができる。	技:加法の場面(合併)を理解し正しく解くことができる。	4	言情協	2けたのたし算	1 (2位数) + (1位数)の筆算の仕方を考える。 2 繰り上がりの意味を理解し、計算の仕方を考える。	技:同じ位同士を計算し、正確にたし算のひっ算を解くことができる。	技:繰り上がりのある計算が、ひっ算で正確に解くことができる。	5	言情協
ふえるところいくつ	2 「ふえる」場面を加法としてとらえ、式に表す。(本時)	思:式を読み取って作問することができる。	思:増加の具体的な場面をイメージすることができる。	知:増加も加法の場面であることを理解することができる。	3	言情協	答えが3けたになるたし算	3 百の位に繰り上がる計算の仕方を考える。(本時)	知:百の位に繰り上がる筆算の仕組みを理解することができる。	思:百の位にくり上がる筆算の仕組みを言葉で表現することができる。	2	言情協
たし算カード	3 たし算カードを作る。	技:計算を速く正確にすることができる。	技:計算を正確にすることができる。	関:たし算のカードを作ろうとしている。	2	言実協振	3けたのたし算	4 (何百) + (何百)の計算の仕方を考える。	知:100を単位として計算できるとを理解することができる。	技:(3位数) + (1,2位数)の筆算を正しく解くことができる。	2	言情協
たし算の0	4 0を使う場面を知り、0の入った加法の練習をする。	思:0の入った場面をとらえ、お話をすることができる。	思:0の入った計算のお話をすることができる。	知:0のたし算の意味を理解することができる。	1	言情協	たし算のきまり	5 具体的な操作活動を通して、加法の交換法則や結合法則を知る。	知:交換法則と結合法則の意味を理解することができる。	知:交換法則と結合法則を使って計算することができる。	2	言情問振
たし算のえほん	5 個々に絵本作りする。	関:絵本を使って友達にお話をすることができる。	関:自由な場面で絵本作ることができる。	関:絵本作りに意欲的に取り組もうとしている。	1	言情問実	れんしゅう	6 既習事項の理解を深める。			1	振
ちからだめし	6 既習事項の確かめをする。				1	振	力だめし	7 既習事項の確かめをする。			1	振

3 本時(6/12)(6/13)

(1) 目標

- 文から加法(増加)の場面をイメージして具体的な場面に絵に表し、加法の計算をすることができる。
- (2位数) + (2位数)で百の位にくり上がる筆算のしかたを考える。

(2) 評価規準

A	B	C	D	E
文から加法（増加）の場面をイメージして、たし算で解くことができる。 【思考・判断・表現】	文から加法（増加）の場面を絵に表し、たし算で解くことができる。 【思考・判断・表現】	文から加法（増加）の場面を具体物で操作しながら把握し、たし算で解くことができる。 【思考・判断・表現】	百の位に繰り上がるひっ算の仕組みを、操作活動を通して表現することができる。 【思考・判断・表現】	百の位に繰り上がるひっ算の仕組みを、言葉で表現することができる。 【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

ア 主体的な学びの視点

授業のはじめに「すること」として学習の見通しを示すことで、子供がめあてに沿って主体的に学習に取り組むことができるようにする。

イ 対話的な学びの視点

同じ内容を学習する学年同士の協働的な場を設定することで、自分や友達の考えのよさに気付き、自分の考えを広げ深めることができるようにする。また、教師が共通点に気付かせるような発問を行うことで、対話的な学びをより進めることができるようにする。

ウ 深い学びの視点

個々の子供に合った主体性を引き出す教材・教具を工夫することで、子供の出来る状況をつくり、学びを深めることができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 学習課題を受け止める。 2 学習問題を焦点化する。 ふえるときは、どんな計算になるかな。 50をこえる数同士の計算は、筆算で解けるのかな。	○ 既習の学習を振り返ることで、本時の学習問題を焦点化するキーワードを子供が答えることができるようにする。 ○ 「すること」を確認することで、見通しをもって学習を進めることができるようにする。
調べる	30	3 具体物で問題場面をつかむ。 ・ 自動車を動かしてみると、問題が分かってきたよ。 ・ コインを使うと、答えが100より大きくなりそうなことが分かるよ。 4 計算の仕方を考える。 ・ 絵を描いて考えてみたらよさそうだ。 ・ 10のまとまりとばらを分けて考えてみたらできそうだ。 5 友達に自分の考えを伝える。 ・ 絵を描いて考えてみたらよさそうだ。 ・ ブロックでも計算できそうだ。 ・ 10のまとまりとばらを分けて考えてみたらできそうだ。 6 本時の学習について確認する。 ふえるときも、たし算が使える。 50をこえる数同士の計算は、百の位にくり上げると筆算で解ける。	㊦ 同じ学年で具体物を使って操作活動を行うことで、問題場面を全員が把握してレディネスを揃えて学習を進めることができるようにする。 ※ 文から加法（増加）の場面を表現し、たし算で解くことができる。 (発言・ノート) 【思考・判断・表現】 ※ 百の位に繰り上がる筆算の仕組みを、操作活動や言葉で表現することができる。 (発言・ノート) 【思考・判断・表現】 ㊧ 自分に合った表現方法で友達に考えを伝える活動を行うことで、自分なりに問題を解決することができるようにする。 ○ 教師が共通点に気付かせるような発問を行うことで、学習のまとめをする際のキーワードを子供が発表することができるようにする。
まとめる・いかなす	10	7 本時の学習を振り返る。 ・ たし算には2つ意味があるんだね。 ・ 答えが100を超えても、繰り上がりの方は同じなんだね。	○ 既習事項との違いを振り返ることで、本時で新たに学習した考え方を明確にすることができるようにする。

